

コード No.20-S-028

提出日：令和4年3月14日

## 令和3年度「コロナ禍に対応した関西在住難民の生活支援事業」報告書

RAFIQ（在日難民との共生ネットワーク）

菅田 由都子

### 1. プログラムの目的

新型コロナウイルス感染拡大により、さらに困窮している関西在住難民の生活支援及びウイルス感染予防を行う。

### 2. 主な活動内容・スケジュール

新型コロナウイルス感染拡大により、より一層困窮している関西在住の難民14世帯24名を対象として、毎月一回、食料や感染予防用品等を宅配便で送り、支援した。

難民が相談に訪れる事務所（OSAKA なんみんハウス）での新型コロナ感染防止策として、消毒を徹底した。

難民が相談のため事務所を訪れたり、裁判所に出廷するための交通費を支給した。

1/18、2/22、3/22、4/19、5/24、6/21 支援物資発送

支援物資購入・箱詰め作業 随時

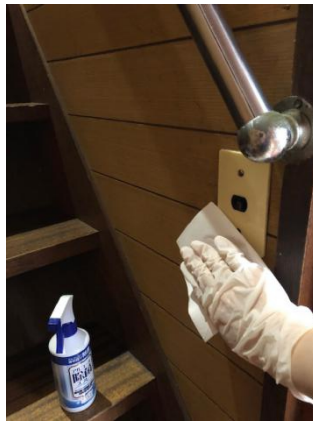
事務所消毒 随時

交通費支給 随時

### 3. 助成を受けた活動の報告



支援物資を難民の世帯ごとに箱詰めし、毎月一回、宅配便で届けた。



感染防止のため事務所を常に消毒

#### 4. 活動の成果

支援物資を受け取った難民の方からは、以下のようなお礼のメールが届いている。

Thank you for food support and hygiene items the kids mask and alcohol Best Regards

I thank you very much for the things that you always send to me..you send things that

I really want to buy and I could not thank you

Thank you for new support foodbox specially for rice and chocolate,laundry washing

powder ,actually we are waiting for new baby Thank you for everything

#### 5. 今後の課題

難民認定を申請中の人など、在留資格がなく就労することもできない外国人は、コロナ以前から生活が苦しく、ボランティアからの支援なしには食べることも難しい状況であったところに、新型コロナウイルスの感染が拡大し、さらに苦しい状況に追い込まれている。そのため、支援団体としてコロナが収束するまでの間は、食料や感染予防の支援物資を各家庭に送る活動を継続しているが、予想を超えてこの状況が長引いており、コロナに対応した助成金もなくなってきていることから、支援継続のための財源確保が課題となっている。